

2018年度 農林水産省・文部科学省後援

日本 **農**業技術 **検**定

検定試験日 **第1回** 7/14 **土** **第2回** 12/8 **土**

応募期間

第1回 5月1日(火)～6月1日(金)
第2回 10月1日(月)～11月1日(木)

受験級

第1回 3級・2級
第2回 3級・2級・1級



玉川大学農学部の専門課程と園芸班の有志学生（サイエンスホール玄関にて）

学生時代に農業の 検定資格を取ろう！

就職に備えて農業知識のキャリアアップを図ろう！

日本農業技術検定は、わが国の農業現場への新規就農のほか、農業法人や関連企業等への就業を目指す学生や社会人などを対象として、農業知識や技術の修得水準を客観的に把握し、教育研修の効果を高めることを目的として、平成19年度から実施している農業専門の全国統一の試験制度です。

大学で学んだ農業に関する実践的知識の修得水準を客観的に測定しますので就職に向けたキャリアアップに役立ちます（一般的に就職時には各種資格取得がある方が有利です）。

実施主体

日本農業技術検定協会
(事務局：一般社団法人全国農業会議所)
〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8

TEL：03-6910-1126 FAX：03-3261-5131
e-mail：kentei@nca.or.jp

日本農業技術検定協会構成団体

全国農業協同組合中央会／全国町村会／全国農業高等学校長協会／全国農業大学校協議会／全国農学系学部長会議／全国大学附属農場協議会／(公社)日本農業法人協会／(一社)全国農業改良普及支援協会／(公財)農民教育協会／(公社)国際農業者交流協会／(一社)日本農業機械化協会／(一社)全国農協観光協会／(一社)農山漁村文化協会／(一社)全国農業会議所(事務局)の14団体によって構成されています。

日本農業技術検定概要

第1回

2018年7月14日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

第2回

2018年12月8日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

1級 13:00~14:30 (90分)

応募期間

第1回 5月1日(火)~ 6月1日(金)

第2回 10月1日(月)~11月1日(木)

試験会場

一般受験は東京・大阪等各地の指定会場

団体受験は試験実施団体の準備・提供した会場

受験料

	一般受験	団体受験	団体受験 (学生割引)
3級	3,080円	2,570円	1,540円
2級	4,110円	3,290円	1,540円
1級	5,140円	4,110円	3,080円

※酪農学園大学、拓殖大学北海道短期大学、秋田県立大学、日本大学、玉川大学、東京農業大学、信州大学、岐阜大学、京都府立大学、県立広島大学、山口大学、宮崎大学、琉球大学、鳥取大学、佐賀大学、東海大学でも大学生の団体受験が進められています。日本大学生物資源科学部では農場実習の中で本検定受験を取り入れています。

※JAふくおか八女、JAしみず、JAかながわ西湘、JAみな穂、JA粕屋、JA福岡中央会、JA福井県中央会、JA兵庫みらい、JA糸島、JAいずみの、JAフルーツ山梨、JA柳川、JAみい、JA筑前あさくら、JAたがわ、JAむなかた、JA福岡京築、JAおおいた、JA東京中央、JAあわじ島、JAグリーン近江、JA越後ながおか、JA松任、JAにし、JAくるめ、JAぎふ、JA丹波ひかり、JA長野県営農センター、JAみなみ筑後、JAなんすん、JA永平寺、JA三原、JA岩沼市、JA東びわこ、JA西びわこ、JA石川県中央会、JA佐波伊勢崎、JA高知市、JA新はこだて、JA御殿場、JA周南、JA大阪南、JA大阪泉州、JAおきなわ では営農指導力の向上やJA一般職員のキャリアアップを目的に団体受験が進められています。JA営農指導員上位資格の要件の1つとして本検定を取り入れているところもあります。

※本検定は一定レベルの農業に関する実務的知識を取得していることの証明になります。

試験方法

[3級] 学科試験のみ

[2級] 学科試験+実技試験

[1級] 学科試験+実技試験

※1、2級も学科試験のみの受験が可能です。学科に合格した場合は、「学科試験合格証明書」を発行します。なお、2級実技試験は、JAの営農指導及び営農関係業務に1年以上携わっている場合は免除措置があります。詳しくはホームページをご覧ください。

3級 試験科目	農作業の意味がわかる入門レベル	■ 農業基礎として共通30問 ■ 「栽培系」「畜産系」「食品系」「環境系」から1科目選択で20問、うち5問は10問の中から選択。環境系の5問は3種類(造園、農業土木、林業)から1つを選択 ■ 四者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象：農業高校生	
2級 試験科目	農作物の栽培管理等が可能な基本レベル	■ 農業一般として共通15問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で35問 ■ 五者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象：JA営農指導員・大学生	
1級 試験科目	農業の高度な知識・技術を修得している実践レベル	■ 農業一般として共通20問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 ■ 五者択一のマークシート方式による計60問
	主な受験対象：JA営農指導員・大学生	

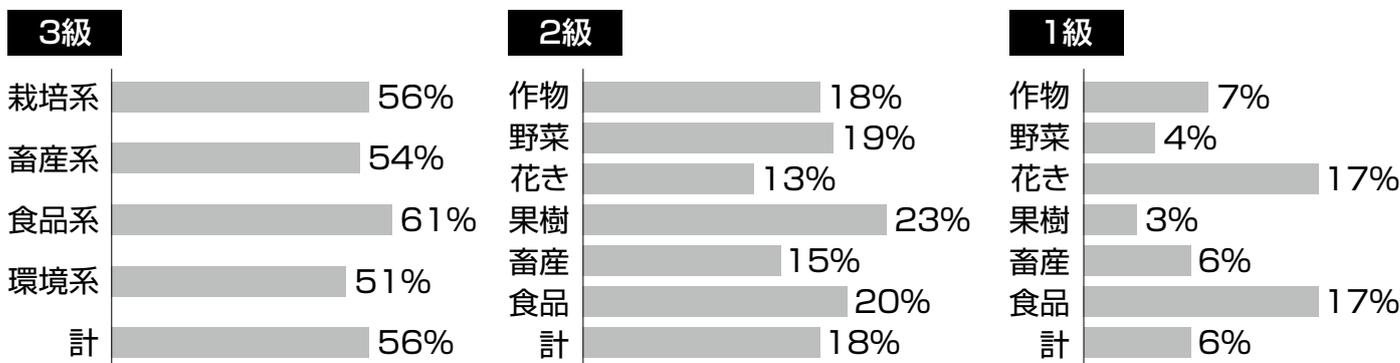
日本農業技術検定の受験実績

①全体受験実績(平成25～29年度)

(受験者数(人)
合格率(%))

	3級	2級	1級	合計
平成25年度	18,405人 (62%)	3,859人 (22%)	293人 (5%)	22,557人 (54%)
26年度	18,411人 (67%)	4,104人 (23%)	258人 (9%)	22,773人 (59%)
27年度	18,926人 (68%)	4,949人 (21%)	245人 (10%)	24,120人 (58%)
28年度	20,183人 (62%)	5,350人 (19%)	308人 (8%)	25,841人 (53%)
29年度	20,681人 (56%)	5,743人 (18%)	277人 (6%)	26,701人 (47%)

②科目別合格率(平成29年度)



③合格基準

【3級】 100点満点の原則60%以上

【2級】 100点満点の原則70%以上

【1級】 120点満点の原則70%以上

実技試験

(2級、1級試験では学科のみの受験も可能です。学科試験合格者には学科試験合格証が交付されます。実技試験までご希望の方は以下をご参照ください)

①2級実技免除

2級実技試験(農業機械についてのほ場での実地検定)の希望者は11月に受験の機会があります。農業系の学校(農業高校、農業大学校、大学等)での農場実習、農業経験(JAの営農指導経験を含む)1年以上、2級実技試験免除規定に指定する農業用機械・食品加工の2機種(工程)以上を履修していれば免除が可能となります。

学校での2級団体受験の場合は、学校(団体)としての2級実技免除手続きをお薦めします(5年間有効)。具体的な手続きは本検定ホームページをご覧ください。

②1級実技試験

1級実技試験は1級学科試験合格者の希望により受験が可能です。1級実技試験(ペーパー記述式テスト)は2年以上の営農経験(JA営農指導等を含む)又は大学等での農場実習4単位を取得している者が受験可能です。実技試験そのものの免除はありません。詳細はホームページをご覧ください。

申込方法

お申し込みは <https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>
ホームページから ※インターネット環境がない方のために、FAX・郵送でも受付可。

①一般受験

個人がインターネットで申込み場合は、申込方法の「一般受験」画面から申し込む。

「農の雇用」事業研修生は、都道府県農業会議が受験者をまとめてインターネットで申し込む。

※受験料の振込先口座番号は受験者別になっており、毎回変わります。

②団体受験

学校・JA・農業法人などの実施団体がインターネットで申込み場合は、申込方法の「団体受験」画面から申し込む。

※一般受験も団体受験も応募期間内に受験料をお振込みください。

テキスト・参考書 (購入方法などの詳細は検定ホームページをご覧ください)

2018年度版
日本農業技術検定
過去問題集
好評販売中!

3級

- (1) 2018年度版過去問題集3級 (発行)全国農業会議所
(2015年度、2016年度、2017年度試験問題6回分を収録)
- (2) 日本農業技術検定3級テキスト (発行)全国農業高等学校長協会
- (3) 日本農業技術検定 傾向と対策 (発行)全国農業高等学校長協会
- (4) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行)教科書出版会社

2級

- (1) 2018年度版過去問題集2級 (発行)全国農業会議所
※2017年度試験問題2回分を収録
- (2) 日本農業技術検定2級テキスト (発行)全国農業高等学校長協会
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行)教科書出版会社

1級

- (1) 過去問題集1級…日本農業技術検定協会(全国農業会議所)
※2015、2016、2017年度試験問題、年度毎に実費販売
- (2) 日本農業技術検定1級…参考図書例 農業関係出版社

※1級試験問題は過去問題の出版物はありません。ホームページをご覧の上、日本農業技術検定協会事務局宛(kentei@nca.or.jp)にメールにてご連絡ください。実費でコピーして送付いたします。

※テキスト・参考書については、それぞれの発行元にお問い合わせください。 全国農業高等学校長協会 TEL.03-5357-1666

大学での団体受験の取り組み紹介

玉川大学農学部

玉川大学農学部は平成29年度に改組を行い、生産農学科、環境農学科、先端食農学科の新たな3学科として様変わりした。講義による「知識学修」と実験・実習を通しての「技能的学修」をバランスよくカリキュラムに配している。それらの学修成果の確認や定量的評価という意味合いも込めて「日本農業技術検定」の受験を学生に勧め、ここ数年団体受験で対応している。この検定を実習授業の中に組み込む段階には至っていないが、希望する学生には試験の内容や難易度から2級受験を推奨している。3年次から専門課程に進んだ学生は、自身の実力の客観的評価を得るなどの目的をもって、この検定に対峙している。語学に

ついては、社会的に十分認知された複数の資格制度があるが、農学分野での能力を担保する資格制度として発展していくことを期待している。本学の特色として農学部の1~4年生によって構成される「園芸班」の活動もあり、正課とは別に野菜や花卉の実証栽培や学内の環境整備などに自主的に取り組んでいる。日本農業技術検定での資格取得は、彼ら自身の活動を通して得た能力の理論的裏付けとして、高いモチベーションの維持につながっている。

玉川大学農学部 農産研究センター
小野 正人(教授・農学部長、センター長)
浅田 真一(教授、副センター長)

日本大学生物資源科学部

日本大学生物資源科学部生命農学科では1年生と2年生が受講する農場実習の中で日本農業技術検定の受験を取り入れています。合格目標は1年生が3級、2年生では2級としています。

実習では検定試験の内容に関するものができるだけ取り入れて、学生にとっては実物を見ながら勉強できるので大変わかりやすくなったそうです。農場実習でこの検定試験を受けるようになったことで学生の目的意識が明確になり、農場実習に対する取り組み方もより真剣になり、卒業後、農業に関する職業を目指す学生には修得している専門資格としてアピールできることを目指すとのことです。

協賛企業・団体の募集を始めました

日本農業技術検定への協賛企業・団体の参加状況

日本農業技術検定は、農業教育に関連する全国14団体による日本農業技術検定協会を組織して実施していますが、この度本検定の取り組みの必要性にご理解をいただける企業・団体を募集したところ、以下の企業・団体のご参加がありましたのでご紹介いたします(平成30年3月1日現在)。今後、参加をご希望される企業・団体はホームページをご覧ください。



日本農業技術検定に関するお問い合わせ

日本農業技術検定協会 (事務局：一般社団法人 全国農業会議所)

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8

TEL:03-6910-1126 FAX:03-3261-5131 e-mail:kentei@nca.or.jp